

平成28年度 大会宣言

我が国の社会は、グローバル化、高度情報化、少子高齢化がますます進む中、産業や技術、雇用や家庭の経済状況等、様々な面で大きく変化しています。

このような状況の中、教育の現場にいる私たちは、社会の変化に対応する教育を、日本国憲法や教育基本法の理念に基づき、学校教育の中に実現していかなければなりません。

新潟県では、教育振興基本計画に基づき、「ふるさとへの愛着と誇りを胸に、粘り強く挑戦し未来を切り拓く、たくましいひとづくり」の実現に向けて、様々な施策が進められています。児童生徒が自己の能力と可能性を最大限に高め、様々な人と協調しながら、自己実現と社会貢献を図れるよう、地域の特色を生かし、地域とともに歩む学校づくりを推進していかなければなりません。

本研究大会では、第10期全国統一研究主題「豊かな人間性と創造性を育む学校教育」（キーワード 生き抜く力 絆づくり）のもと、「生涯にわたって能動的に学び続ける子どもを育む学校づくり（第3年次）」をサブテーマに掲げ、直面する教育諸課題の解決を目指してきました。また、4ブロックでの研究大会を開催することにより、各ブロックの特色と独自性を生かし、「研究の継続性」、「組織研究としての協働性」、「学校運営における教頭の関与性」の3つを研究の柱として、教頭の在り方を明らかにしてきました。

私たちは、教頭としての職責の重大さを改めて自覚し、これからの社会を生き抜く児童生徒に、多様な人々との絆づくりを通して、自ら考え、自ら問題を解決し、新たな価値を創造する力を育て、活力ある学校づくりを進めていかななくてはなりません。

ここに会員の総力を結集し、次の事項の実現に教頭として全力を尽くすことを、第52回新潟県小中学校教頭会研究大会の総意をもって宣言します。

決 議

- 1 児童生徒に「生きる力」を育むために、中学校区の学校間の連携、家庭や地域との連携のもと、地域の特色を生かし、地域とともに歩む学校づくりを推進する。
- 2 学習指導要領の趣旨を踏まえつつ、児童生徒一人一人の確かな学力の向上に向けて、中学校区内の学校間及び学校と家庭が連携し、組織的、継続的に取り組む。
- 3 自校の道德教育の課題を明確にし、教育活動全体を通じた道德教育の充実や家庭や地域と連携した道德教育を推進し、児童生徒の豊かな人間性や道德性の育成に努める。
- 4 いじめ、不登校、暴力行為等の生徒指導上の諸問題を解決するために、「いじめ見逃しゼロスクール」を中核として未然防止、早期発見・即時対応に努めるとともに、保幼・小・中・高等学校の長期的な視点に立った社会性育成の取組を進める。
- 5 たくましく生きるための体力や望ましい生活習慣を育み、児童生徒が生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送ることのできる基盤づくりに努める。
- 6 児童生徒が自己有用感を高め、長所を生かすことができるように、合理的配慮に留意した指導や支援、授業の改善、学級経営の工夫、関係機関との連携により、一人一人の教育的ニーズに応える特別支援教育を推進する。
- 7 ふるさとへの愛着や誇り、未来を切り拓く力を育てるため、全校体制でキャリア教育を推進する体制を整え、児童生徒が多様な人々の生き方を知り、様々な職業を体験しながら、自らの生き方を考える学習を充実させる。
- 8 教頭の職責の重大さを自覚するとともに研鑽を積み、自らの資質と指導力を高め、優れた教職員の育成に全力で取り組む。

平成28年10月28日

第52回新潟県小中学校教頭会研究大会